

行政提案型協働事業実施計画書

行政課題	和光市は転出入が多い、地域のつながりが希薄、平均年齢が若い、子どもが多いという特色がある。子育て支援拠点や、一時保育、保健師によるサポートなど支援メニューは充実してきているが、一向に待機児童は減らないなど、なかなか現状のニーズの増加に追いつかない実態がある。このようなことから知り合いがいないままこどもが誕生し、きっかけや情報の不足、コミュニケーションが苦手、あるいは環境物理的なハードルなどの多様な理由によって、子育てで大変な時期に支援を上手に使えず、引きこもりがちな家庭がまだまだ実際には相当数あるものと思われる。「出てこない家庭に課題がある」とよく言われるが、それは現状の施策から取りこぼされるそういった家庭が孤立することによって引き起こされる育児不安の増大と、そのために子育て課題が深刻化して虐待などのリスクが高まるという課題である。特に、行政支援が受けられる育児困難家庭というほどには深刻ではないが気がかり、という家庭が見過ごされてしまいがちという現状がある。そういった家庭に適切な時期に適切な支援が行われないことによって、課題が深刻化し、家族関係に影を落とし家庭崩壊や児童虐待、将来の種々の課題の発生のリスクが高まってしまっている状態に対してなかなか手を打つ手立てがないのが課題である。
協働事業名	子育て家庭孤立化防止事業ホームスタート
課題の現状認識	1 課題に対する現状認識 われわれが運営するもくれんハウスにやってくる来場者から「こどもと二人では煮詰まってしまう」「こういう場所があると知っていたら早く来ればよかった」という話を聞くことがよくある。また市内転居で来られなくなった気がかりな親子が後に子育てで深刻な課題を抱えるようになっていくことを知ったこともある。スタッフの近所で時々あいさつを交わす気になる新米の母親とこどもに非常に悲しい出来事が起きたこともある。拠点での支援活動は大きな成果を上げ、育児不安を支えあえるいい活動になっていると実感する一方で、出てこない親子には届けられないことを痛感してきた。一番子育てが大変で出かけられない時に支援者に来てほしいか、ということは何人もの当事者に聞いてみた。すると案外来てほしいと思う、だれかと話したいという多くの答えを聞いた。でも保健師さんは専門家で来てほしいから来てとはなかなか言えるものでもない、という声も聞いた。もくれんハウスのスタッフみたいな人が来てくれたら、本当に助かると思う、という複数の声があった。気軽に使えるアウトリーチによって、一番大変な時期に子育て家庭が孤立から脱却できる仕組みを持つこ

	とは、虐待などの深刻な問題発生を予防する大きな助けになり、将来の問題の発生を予防する可能性があるのではないかと考えている。 2 課題選択の理由 ホームスタートは地域の子育てボランティアが研修を受けて訪問支援を行う地域の力を生かしたピアサポート(同じ立場の仲間によるフレンドシップに基づく支援)であり、子育ての先輩が親の気持ちを傾聴し一緒に子育てする(協働)する支援は拠点と同様に育児不安の軽減に高い効果を発揮することが期待できる。が、家庭に入る支援は難しい側面もある。ホームスタートには活動の安全を保障していく仕組みがありその信頼される方法を用いることで行政の既存の支援との密なネットワークの構築も可能であるため、私たちはすでにこの方法を用いて地域の専門機関と連携しながら一昨年から自主事業として訪問型支援にとりくんできたためこの課題に取り組んだ。
事業目的	1 解決する地域課題の内容 子育て家庭の孤立による育児不安の軽減、深刻な問題の発生予防、地域住民を巻き込むことによる子育てを温かく支えあう社会づくり 2 課題解決に対する市民ニーズ(課題として提起する根拠等) 一昨年8月から自主事業でホームスタートを始め利用者を募ったところ、一昨年は12件、昨年は23件、今年度8月現在で5件とすでに40件以上の希望する家庭があった。周知が十分とはまだいえない中ではあったが、利用者は転入家庭、多胎育児家庭、多子年少家庭、子どもに発達課題のある家庭、産後うつの家庭、若年・高齢の親、成り立ちに不安定さを持つ家族、ひとり親、など、育児不安が強い拠点ではなかなか拾いきれないデリケートな課題を持つ家族たちがニーズをもっていることは明らかといえる。継続した訪問支援で、母親たちが自信を取り戻し、子どもが明るくなり、親子が社会とのつながりを持っていて、ホームビジターに感謝する様子の活動内容や成果からも訪問して子育て支援を行う必要性をさらに感じている。
問題解決の手法	1 問題解決の方策 ホームスタート:自らあるいは紹介で訪問支援利用を希望し申し込んだ家庭にオーガナイザーが訪問し、ニーズと支援内容を相談し決める。その後登録されたホームビジター(訪問ボランティア)をマッチングし紹介して、ホームビジターが4回程度訪問支援を行う。その後再びオーガナイザーが家庭を訪問し当初のニーズの改善について評価し、利用者の意向を尊重しながら終了または継続の判断を行う。継続の場合は再びホームビジターが家庭を4回程度訪問し、その後再びオーガナイザーがニーズ改善についての振り返り訪問を行い終了か継続の判断を行う。ホームビジターは無償ボランティアであり、利用者は無料で利用できる。友人のようにフレンドシップに基づくピアサポート(同じ立場の仲間による支援)を基本とし、傾聴と協働で家族

	を支える。ベビーシッターや家事代行は行わない。 2 問題解決の独自性及び先駆性 専門家による訪問とは異なり、民間の訪問支援である。子育て経験のある地域住民の力を生かした地域協働の訪問型子育て支援というのはまだあまり取り組まれていない先駆的活動である。無料であること、当事者性の高いこと、は子育て家庭にとってハードルの低い気軽に使える支援であり、家族が社会に開かれ、子育ての日常が支えられ、親に自信を与え見通しを持たせるという効果があり、自立した子育てに自然と導いていく温かい支えあいである。まだ埼玉県内で3か所しか取り組まれておらず、全国に普及が始まったところでもあり10月5日には厚生労働省少子化対策企画室による視察が予定されている。 3 想定される問題及び対策 家庭に入る支援では、守秘義務の問題など、厳しい倫理観や繊細さが求められる。専門家ではない地域住民であるホームビジターを中心に取り組まれるホームスタートでは、支援の質が個人の資質だけに左右されぬよう、評価を途中で実施しながら支援を行うツールと手順、ケースとホームビジターをマネジメントする専門職のオーガナイザーと、それをバックアップするトラスティ会議などの組織体制やビジターやオーガナイザーの養成講座やスキルアップ研修など、を用意することが求められる。そのことで活動の安全を保障していく仕組みを持っている。
役割分担	1 提案団体が果たす役割 *家庭訪問型子育て支援「傾聴と協働」による子育て家庭への寄り添い支援を行う。*関連機関とケースのために、またより良い支援実施のために情報交換や連携構築を行う。*地域の子育て経験者を研修し、ホームビジターを養成しその後のマネジメントを行う。*活動の質の維持向上のために関わるスタッフ全員のための研修に継続して取り組む。*質の維持のためホームスタートジャパンのコンサルティングを受けながら全国の他団体との交流にも参加する。*活動を支えるスーパーバイザーを含む有識者関係者によるトラスティ会議を組織する。*活動の周知のために事業報告会を実施する。 2 市に期待する役割 *トラスティ会議の一員として、活動全体に助言などを行い、質の維持などに寄与する。*必要なケースの紹介や、周知について協力する。*困難なケースについては役割分担しながら情報を交換し、ともにより良い支援についてケース会議などをもち、連携していく。
協働の必要性	1 協働の必要性 子育て支援は一つの機関で抱え込まずに複数の機関との連携が必須である。深刻な課題を抱える場合もある子育てはそれなくして安全安心に子育て支援をすることはできない。支援の質の維持、安全性の確

	保、ケース連携におけるの守秘義務遵守等のコンプライアンスにおいてもお互いの対等性と信頼関係と役割分担とルールによって家族への十分な支援がようやく実現できる。 2 協働による相乗効果 対人援助は利用者が主人公であり、その人の生き方を支えるときにその人の意思が尊重ないでは良い支援はできない。縦割りや主催団体の違いを超えての連携関係があつて初めて家族の意思を生かした自立支援の対人援助を実現できる。協働は利用者にとって最も重要なことである。またお互いの機能をよく理解することで、役割のメリットを生かしたよりよい援助が可能になってくる。別機関からホームスタートへ、またその反対の紹介、並行した支援の利用など、必要な時に必要な分量の内容でより効果的な支援を展開することができる。
個別事業の内容 (事業ごとに記入)	1 事業名 ホームビジター (子育て訪問ボランティア) 養成講座 目的 ホームスタートの活動に関わるホームビジターを養成する 成果 10人程度のホームビジター登録 内容 八日間(全14コマと面談)の連続講座・募集チラシ作成 実施日程 6月から7月週に一回予定 参加予定者 地域の子育て経験者 実施場所 和光市内会議室等 予算額 281300 2 事業名 トラスティ会議 目的 活動改善 成果 活動の改善 内容 活動報告および評価と助言 実施日程 年2回 参加予定者 後述の通り 実施場所 和光市内 予算額 103140 3 事業名 家庭訪問型支援 目的 子育て家庭の孤立防止 成果 子育ての改善 内容 訪問の受付などのコーディネート、継続訪問支援による傾聴と協働での寄り添い支援、スーパービジョン、募集チラシ作成、ホームスタートジャパンによるコンサルティング 実施日程 通年 参加予定者 20家庭程度利用者、ホームビジター、オーガナイザー 実施場所 訪問先家庭 予算額 554100 4 事業名 ビジターフォローアップ講座 目的 ビジターのスキルアップ 成果 モチベーション維持スキルアップ 内容 ケース検討他 実施日程 年間4回 参加予定者 ホームビジター 実施場所 和光市内 予算額 97700 5 事業名 活動報告会 目的 ホームスタート周知 成果 必要性の認識アップ 内容 事例報告 実施日程 年1回 参加予定者 一般市民 実施場所 和光市内 予算額 4000(4と重なる) 6 事業名 ビジター関東ブロック交流研修会参加 目的 外部交流研修 成果 ビジターのモチベーションとスキルアップ 内容 関東のホームビジター交流研修 実施日程 秋年一回 参加予定者 ホームビジターと引率するオーガナイザー 実施場所 関東 予算額 30000 7 事業名 オーガナイザースキルアップ研修参加 目的 オーガナイ

	ザーのスキルアップ 成果 コーディネート力量アップ 内容 ホームスタートジャパンが主催する研修に参加 実施日程 秋ごろ1回 参加予定者 オーガナイザー 実施場所 関東 予算額66000
事業の実施体制	1 人的体制 オーガナイザー 森田圭子（わこう子育てネットワーク代表） 八木久仁 近江幸子（予定） トラスト会議 日本女子大学教授 林浩康氏 臨床心理士 竹部知子氏 和光市保健師 中田典子氏 和光市こども福祉課 斉藤浩氏 もくれんハウス責任者 鈴木雅子 2 提案する協働事業の特長（知識、経験、実績等） 引きこもりがちな子育て家庭に子育ての経験者が訪問して、寄り添いながら支援をする事業で、子育て中の親の気持ちをよく支え、子どもの育ちを支える温かい地域の支えあいの特徴を持つ。現在3年目の活動で、ホームビジター登録数は25名、訪問実績数は昨年度で168回 訪問家庭数は一昨年が12件、昨年度が23件、今年度が8月現在5件。
年間スケジュール	4～6月 訪問支援、ホームビジター養成講座開始、ビジターF U研修 7～9月 訪問支援、ビジターフォローアップ研修、 10～12月 訪問支援 ビジターF U研修、オーガナイザーF U研修 1～3月 訪問支援 ビジターF U研修、事業報告会
協働の成果	① 団体 ② 行政 ③ 地域
成果指標	1 利用家庭数、2 利用家庭におけるニーズの達成度、 3 ホームビジター登録数
事業と関連する団体の特長及び活動実績	1 提案する協働事業に関連する知識、技術等（団体の特長） 2 提案する協働事業に関連する活動実績 平成12年度から和光市で子育てサロンや子育て当事者が支えあうネットワークづくりに取り組んできた。平成16年からはつどいの広場もくれんハウスを運営受託し、地域の子育てを支える活動に取り組んできた。その活動の中で、他機関との連携を進め和光市の要保護児童対策協議会実務者部会の一員として活動し実際の対人援助に多く関わってきた実績を持つ。また早くから多文化共生子育て支援にも取り組み、その経験が多様な子育て支援の一つのメニューともなっている。森田は県の児童福祉審議委員、市の教育委員長も務め、部署を超えたネットワークの構築に携わってきており、この経験が生かされていくと思われる。
他団体とのネットワーク（協力、共催等）	特定非営利活動法人ホームスタート・ジャパン 埼玉ホームスタート推進協議会、ほか
事業の実施年度以降のスケジュール	実施年度以降も、同様の内容で継続していく予定。周知が図られることで利用家庭数の向上を目指す。

※ A4サイズ5ページ以内で、できるだけわかりやすく、具体的に記載してください。

わこうネットワーク ⑤